

白芥子○中略

白芥子温辛

能入肺能發散故有利氣豁痰温中開胃散痛消腫辟惡邪之功痰在脇下及皮裏膜外非

白芥子莫能達凡腫毒初起用白芥子末醋調塗之

〔東大寺要錄三〕供養東大寺盧舍那大佛記文

貞觀三年歲次辛巳春三月十四日戊子行大會事○中略

一僧供 導師一人供料○中略 芥子三升○中略 法用千僧供 一人料○中略 芥子一合

〔天草家料理書〕一鹽蛸をあへるはけし豆腐を摺合て貝の鹽を水にて出してあへる也○中略 又青

くあゆるは青辛しを火取てまする也

一のたあへ鱧は○中略 ひとしほ青くするは青辛たて摺交り吉也

〔源氏物語五十三手習〕この人舟○浮は猶いとよはげなりみちのほどもいかゞものし給はんいと心ぐ

るしきこと、いひあへり車ふたつしておい人○僧母のり給へるにはつかうまつるあまふたり

つぎのには此人舟○浮をふせてかたはらにいまひとりのりそひて道すがら行もやらず車とめ

てゆ參りなどし給ひえさか本にを野といふ所にぞすみ給ける○中略 河にながしてよといひし

一言よりほかに物もさらにの給はねばいとおぼつかなく思ていつしか人にもなしてみんと

思ふにつく○くとしておきあがるよもなくいとあやしうのみものし給へばつるにいくまじ

き人にやとおもひながらうちすてんもいとおしういみじ夢がたりもし出てはじめよりいの

らせしあざりにも忍びやかにけしやくことせさせ給ふ

〔倭訓栞中編七計〕けしのか 源氏にみゆ芥子の香也護摩供をいふ蜻蛉日記にけしやきともい

へり魔怨などを降伏するには白芥子など用うといへり

○按ズルニ芥子燒ノ事ハ宗教部修法篇ニ詳ナリ參看スベシ